

■テーマ展

平成17～20年度 新収蔵資料展

会期：平成20年12月13日(土)～平成21年2月22日(日) 会場：特別展示室

貴重な資料を収集し、後世に伝えることは、博物館の大切な活動の一つです。岩手県立博物館では、平成18年度に3,379点、平成19年度に3,289点の資料を新たに収集、登録しました。現在の資料総数は約17万点となりました。これらの資料の多くは博物館資料充実のために寄贈していただいたものです。

今回の「新収蔵資料展」では、平成17年度以降に収蔵した資料や整理が終了した資料の中から、未公開の資料を中心に公開いたします。

展示会のみどころ

くまげらの巣立ち雛・オス



くまげらの巣立ち雛

この剥製標本の巣立ち雛は、生後、約29日目のくまげらのオス個体です。2006年、札幌市藻岩で繁殖したつがい4番目の雛です。しかし、この個体だけがなかなか巣立ちすることができず、その後、巣立ちしたものの、約35時間以上、何も食べていなかったことから、衰弱により

落鳥した個体です。くまげらは国の天然記念物であるため、展示に際しては、札幌市教育委員会からの許可をいただきました。

くぐり雛

2005年に寄贈いただいた昆虫標本を紹介します。くぐり雛をはじめ、多くの蝶類の標本は学術的に貴重なものであることはもちろん、たいへん美しく、見ごたえのあるコレクションです。



くぐり雛

花巻市の家庭でひな人形のひとつとして飾っていたくぐり雛です。

ホーロー看板「中将湯」

花巻市大迫町の雑貨店の店先に掲げられていた葉の看板です。

大形土版

サイズが16.5×12.9cmの楕円形を呈する大形の土版であり、土版としては国内最大級のもので、土版は、縄文時代晩期に特有な板状の土製品であり、表裏両面に同様な文様が施されています。出土状況は不明ですが、5.8×4.6cmの小形土版とセットになるものと考えられています。



大形土版 縄文時代晩期 (軽米町板橋遺跡出土)

瓢形土器

瓢(瓢箪)の形を模倣して作られたと連想させる小形の壺です。口縁部から胴部にかけて1/3ほど欠損がありますが、おおむね保存状態は良好です。瓢形の土器は、県内では二戸市中曾根遺跡での出土例が知られている程度であり貴重です。軽米町軽米下新町(駒木)地内の住宅裏の畑から出土したものとされ、大日向II遺跡との関連が想定されます。



瓢形土器 縄文時代晩期 (軽米町駒木地内出土)

(学芸調査員 原田 祐参)

展示解説会

12月14日(日)、2月11日(水・祝)

14:00～15:00 特別展示室(要入館料)